

みなとつぷ

地域の魅力を地元から発信

Takanawa Community News Magazine

高輪地区情報紙

三田4・5丁目・高輪・白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 協働推進課

編集：みなとつぷ編集室

<https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



2026年3月

Vol. 57



400年以上の歴史を誇る日本庭園の河津桜

八芳園、2025年改修オープン!

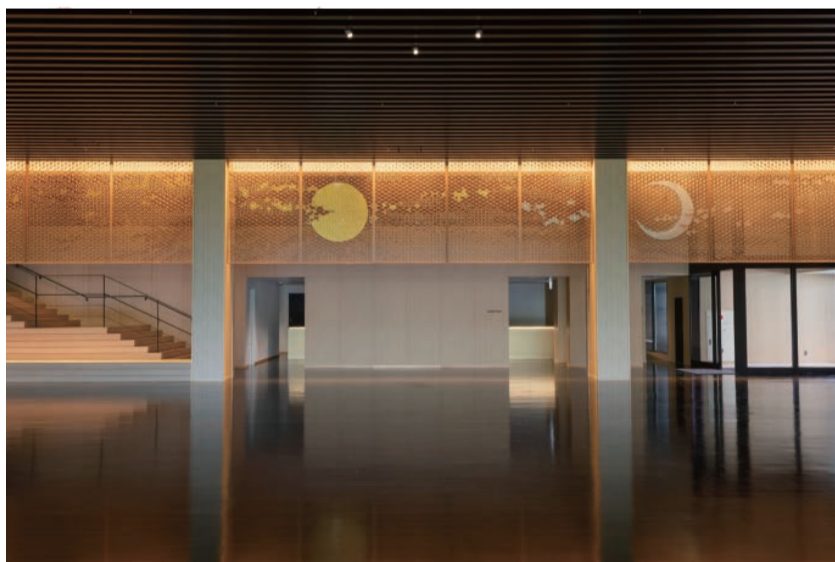
地域に根ざしながら日本の美意識や文化を守り、時代とともに進化と創造を続けてきた八芳園において、この度の改修は、創業以来最大規模のものです。

本改修のコンセプトに「日本の、美意識の凝縮」、テーマには「継承と創造」を掲げ、スペースの使用用途を見直し、最適配置することで施設の活用を進めました。環境に配慮するとともに、ブライダル事業にとどまらず、会議、展示会など、多様化するビジネスイベントに選ばれる施設として、そして白金台から白金・高輪エリアへと広がる事業を展開する予定とのことです。

(文/安藤、清水 写真/平尾)



庭園側から見た外観



改修された本館メインロビー

CONTENTS

P2 街が変わる
MoN TAKANAWA

P3 この街にこの人あり
前港区副区長・野澤靖弘さん

P4/5 地域のあしあと
戦中・戦後の高輪

P6 **CHOIR** 頌栄女子学院高等学校 聖歌隊
BOYS & GIRLS 高輪消防少年団

P7 **HISTORY** 港区立白金小学校
NATURE かいぼり

P8 区からのお知らせ
クロスワード

街が変わる

いよいよ街の
グランドオープン

物語がぐるぐる巡る文化の実験的ミュージアム

「MoN Takanawa (モン タカナワ)」3月28日開館！



◀ぐるぐるとしたスロープが特徴的な外観
隈研吾が手がけた地上6階・地下3階の建築。緑と木材の
らせんが大地から空へ昇っていくデザイン

外観の特徴であるスロープは、実際に歩いて巡ることができます。同じ場所を回りながら視点が高まり、新しい景色に出会う体験は、物語が深まる過程そのもの。そして、開館記念特別展も「ぐるぐる展」。すべてが「ぐるぐる」という物語でつながっています。

▶屋上庭園
(MoNファーム)
季節の花々や草
木、果樹のほか、
野菜やハーブを
育てる菜園も



RF

6F



◀月見テラス
お花見やお月見
など、季節のイ
ベントも開催予定

▶Tatami (タタミ)
靴を脱いでくつろげる
約100畳の大広間。デ
ジタル屏風の展示、お
酒を楽しめる和楽器
バー、カルタ大会などの
計画も検討中
※有料のプログラムを
行う場合もあります



4F

3F

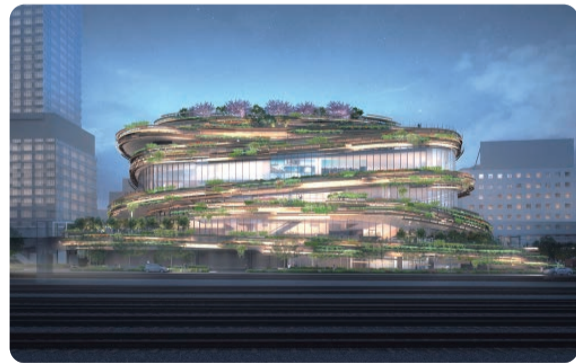


◀トレインテラス
行き交う新幹線や電車
を一望できる特等席

▶MoNライブラリー
プログラムの余韻に浸
りながらページをめくる
時間に
※貸出予定なし



B3-B1F



▲ライトアップされた夜の外観
らせんの光が街の新たなランドマークに

バス提供：JR東日本 / CG制作・提供：品川開発プロジェクト(第1期)設計共同企業体
※バス・CGは計画中のものも含まれるため、一部変更になる場合があります。

MoN Takanawa: The Museum of Narratives

(モン タカナワ: ザミュージアム オブ ナラティブズ)

- オープン：令和8(2026)年3月28日(土)
- 所在地：TAKANAWA GATEWAY CITY内 (港区三田3-16-1)
- アクセス：JR東日本高輪ゲートウェイ駅直結 北改札口から徒歩6分 / 都営地下鉄浅草線泉岳寺駅A4出口から徒歩3分
- 開館時間・休館日：10:00～19:00(イベントにより異なります) 月1回程度の定休日あり。詳しくは、公式サイトをご覧ください。

公式サイト <https://montakanawa.jp>

公式SNS @montakanawa



◀今回インタビューに応じていただいた、開館準備室の清水理三郎さん(JR東日本文化創造財団)

●「門」と「問い」。物語のミュージアムとは

MoN(モン)という不思議な響き。そこには「門(新しい世界への入り口)」と「問い(未来を創るきっかけ)」という2つの意味が込められています。

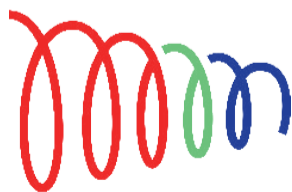
「このミュージアムは、特定の収蔵品を持つ従来の美術館とは異なります」

そう語るのは、開館準備室コミュニケーション推進部部長の清水理三郎さん(JR東日本文化創造財団)です。物語のミュージアムという名前の通り、ここでは物語こそが主役になるといいます。

例えば、展示を見て感じた「なぜ?」という疑問。それを家族や友人と話したり、調べたりすることで、また新しい発見が生まれる—そうした一人ひとりの物語が積み重なり、新しい文化が生まれていく。そんなつながりが、この高輪の地から始まろうとしています。

●すべてが「ぐるぐる」。デザインに込められた想い

MoN Takanawaは、ロゴから建物まで、すべてが「ぐるぐる(スパイラル)」で貫かれています。



◀ぐるぐるの線で描かれたロゴマーク
3色のスパイラルをよく見ると、色の切れ目が「M」「O」「N」の文字を形づくっている。「太陽の赤・大地の緑・海の青」で高輪の自然を表現

プログラム例(一部抜粋)

ぐるぐる展
—進化しつづける人類の物語
2026年3月28日(土)
～9月23日(水・祝)

会場 Box1500
世界に無数にあふれる「ぐるぐる」の不思議に出会う。銀河の渦から家事、指紋まで、世界にあふれるぐるぐるの魅力を見て、触れて、感じる知的エンターテインメント。

MANGALOGUE
(マンガログ):火の鳥
2026年4月22日(水)
～5月16日(土)

会場 Box1000(地下エリア)
マンガを「読む」から、「体験する」へ。手塚治虫の名作『火の鳥』を、1,000人規模のシアター空間で映像演出やライブナレーションとともに共有する、新しいマンガ体験。

ひらけMoN!展
—はじまりのはじまり
2026年3月28日(土)
～6月6日(土)

会場 Box300
MoN Takanawaは、どのように生まれたのか。建築、建設、ロゴ。MoN Takanawaの誕生プロセスを資料や映像で追体験できる展示。

この街にこの人あり

のざわ やすひろ
野澤 靖弘さん (前港区副区長)

プロフィール

昭和34(1959)年生まれ。早稲田大学および大学院で建築を学び、港区の都市基盤や学校施設整備、街づくりに長年携わってきた行政実務の専門家。高輪地区の協働推進課長、総合支所長を歴任し、地域行政の推進にも寄与。令和3(2021)年に港区副区長に就任し、区政運営の中心を担う存在として活躍してきた。令和7(2025)年10月に、任期満了で退任。

区民と企業と行政が手を取り合い、 ともに港区の未来をつくりましょう

高輪地区の協働推進課長、総合支所長として5年間携わり、また、街づくり支援部長、副区長として港区の街づくりを指導されてきた野澤靖弘さんにお話を伺いました

●建築の設計業務について

—建築、都市計画を大学、大学院で学ばれ、実際に行政で活動されたことはどんなことでしたか？

昭和53(1978)年に早稲田大学へ入学し、大学で建築計画を、昭和57(1982)年からは大学院で都市計画を学びました。

昭和59(1984)年、港区に入庁し、港区特別施設建設本部建設課に勤務し、庁舎と議場の設計にも関わりました。庁舎と議場を連絡する上空通路は担当者と何度も協議を重ねて、必要性を認めてもらい、やっとの思いで実現することができました。



庁舎と議場を連絡する上空通路

平成19(2007)年から港区教育委員会事務局学校施設計画担当課長として、学校施設の設計・施工などを担当しました。小中一貫校である白金の丘学園もその一つです。計画段階では、規模や予算の関係で財政課と厳しいやりとりとなりましたが、素晴らしい校舎ができたと思います。

●高輪地区について

—高輪地区で協働推進課長、総合支所長として、地域や住民の方と接してこられました。高輪地区の印象や課題について、どうお考えですか？

平成26(2014)年、高輪地区総合支所に来て、都市計画分野ではない部署だったので、最初は戸惑いもありました。しかし、地方自治体の根幹的な仕事をさせていただく機会となりました。

高輪地区は住宅地を中心に、商店街が活発で、お祭りなどイベントが多くあり、活気がある住みやすいまちだと思います。

—高輪地区では、住民と支所との協働プロジェクトを行っています。活動の成果はどうお考えですか？

多くの住民が参加し、高輪地区のどの事業も20年近く継続しているのは、素晴らしいことです。「継続は力なり」ですね。チャレンジコミュニティ大学のように、これほど密接に大学と行政が結びついた事業は、全国でも大変珍しい事例であり、ユニークな取組です。地域コミュニティの形成に貢献していますね。

『みなとっぷ』については、どの記事も編集スタッフがインタビューし、取材し、写真を撮り、原稿をまとめているので読み応えがあります。行政の文書とは違った住民の視点が生きています。編集スタッフも行政担当者も努力しているのがわかります。

記事には、高輪の情報が集約されており、そのまま“高輪辞典”になります。SNSなどで広く発信してほしいですね。

—高輪地区は、地域が発展している一方で、町会の役員の高齢化や担い手不足が課題となっています。どのようにお考えですか？

多くの町会が活発に活動を続けていることは心強く思っております。役員の高齢化など課題はありますが、お住まいの形態にかかわらず、多くの皆さまが町会活動にご参加いただくことを望みます。

●港区の開発・再開発について

—港区ではTAKANAWA GATEWAY CITYの開発など大規模開発がめじろ押しですが、それに対応する港区の将来はどのように考えたらよいのでしょうか？

大規模な開発には、大きな企業や事業者が参加しています。また、オフィス、店舗、ホテル、会議施設、住宅などの複合用途の建築物がほとんどです。

企業や事業者の地域に果たす役割は大きなものとなっています。「企業・事業者」、「住民」、「行政」が三位一体となって、まちづくり、防災対策、地域の維持・管理に取り組むのがよいと思います。

—街づくり支援部長、副区長として、港区のまちづくり、再開発計画を行政として指導される際、一番留意した点はどのようなことですか？



平成29(2017)年から街づくり支援部長、令和3(2021)年から副区長として、港区のまちづくりに関わりました。

大規模再開発で一番大切なのは、地域との調和と環境影響の軽減です。超高層建築物の林立は、CO₂を増加させ、海からの風の道を遮断し、ヒートアイランド現象など地域の環境の悪化を招くことになるからです。また、日照の影響、ビル風の発生なども懸念されます。

港区では大規模開発については、一定の「緑化基準」を満たすこと、断熱性能や省エネ機器の導入などの「環境配慮基準」を達成することを義務付けています。海からの風の道を遮るような超高層建築物の配置にならないよう、また、日照やビル風の発生の影響を配慮するよう、開発者に指導しています。

また、増え続けるごみの量をどう処理するかが課題です。港区では、ペットボトル材を無限循環させる水平リサイクルを行っています。下水処理場から発生する熱の再利用も行っています。港区はごみや下水などを再利用する循環型社会の実現を目指しています。

—フランスのパリ15区との交流を始めていますが、そのねらいはどんな点にありますか？

パリ15区はセヌ川に面しており、セヌ川の浄化という環境問題が課題となっています。港区も環境の向上を大きなテーマにしており、共通項があります。環境問題に関するシンポジウムなどが開催されています。

—港区について、今後、引き継いでほしいと思うことはありますか？

開発が集中する地域では、昼間・流動人口増による負担を強いられることが多くあり、コスト負担問題は、残された課題だと感じています。財源を広域的に活用する税財政の仕組みを改善し、より公平な税財政の実現を期待しています。

●取材を終えて

永きにわたり、港区の発展、環境、次世代の育成などさまざまな課題と向き合ってこられ、「従来からの住民と新しい住民との調和が重要。また企業・事業者、住民、行政の三者が協調してともに歩んでいければ」とおっしゃる野澤さんの眼差しに、ラグビーの「One Team」の精神を見た気がしました。今後のご健闘をお祈り申し上げます。

◇柏原 淳子さん(80歳)

江戸時代の創業で伝統ある畳店「八代目清水長四郎商店」の次女として生まれた柏原淳子さんに、ご実家の畳店の想い出や子どもの頃の様子などを伺いました。



伝統ある畳店の紹介

正徳2(1712)年頃に、初代清水長四郎が武家屋敷の多い青山で畳屋を創業し、代々、武家や神社・仏閣のお屋敷の畳を得意としてきました。特に四代目の畳は「不味公(出雲松江藩十代藩主松平治郷公)」のお気に入り、不味公が隠居後に過ごした品川区大崎にあった松江藩下屋敷は、11もの茶室がある「大崎茶苑」と呼ばれ、茶人として数々の茶会を催しました。実家の一番奥の庭には不味公の許可をいただいて模倣した茶室がありました。

「不味公」や「天現寺」と深く関わりをもち、ご先祖が不味公から狂歌を読んだ掛け軸を拝受したこともあり、兄は、先祖代々不味公から拝受した品々を「郷土資料館」に寄贈しました。

お屋敷畳職人としての心構えと見習い修行の職人さんの想い出

町場とお屋敷の畳職人では心構えが違ったようです。なぜ家にお茶席があってご先祖がお茶を嗜んでいたのか両親に聞いたところ、「お屋敷

の畳職人はお家の奥の奥まで入って畳を上げ、道具を動かし、お屋敷の方や時にはお殿様にお会いすることもある。礼儀作法や所作を覚えることはとても大事で、代々必ず茶を習い覚えさせた」とのことでした。

20代から30代くらいの地方の畳屋の後継者が見習い修行に来て、修行が終わると実家に帰ります。厳しい修行の様子はうろ覚えですが、一緒に遊んでもらった記憶は残っています。暮れには職人さんたちが餅つきをし、大掃除ではちり一つ、わら一つ落ちていないほどきれいになりました。

代々の跡継ぎの名前の継承や父・兄の優れた技能

代々の長男は「長次郎」と「長之助」の名前を交互に継ぎ、父は「長次郎」、九代目の兄は、父が現代風の名前がよかろうと、「助」を除いた「長之」と命名、家長として家業を継ぐと、家名「畳師 長四郎」を名乗りました。

父や兄は神社・仏閣で使われることの多い「紋縁」を得意としました。一般的な茶や黒色のへりではなく、お寺や大名家の紋が入った紋縁を隣同士の畳ときちんと合わせるの是非常に難しく高い技術と経験が必要とされ、紋縁を扱える畳職人はそういなかったようです。

また、昔は、「四方」や「置き畳」と呼ばれる花瓶など大事なものを置く畳敷があって、へりを四方につけるのはとても難しい技術でした。畳の角に縁を巻くとき、腕の良い職人さんはピシッと決まって隣同士の畳がすっきり入りますが、腕の悪

地域のあしあと

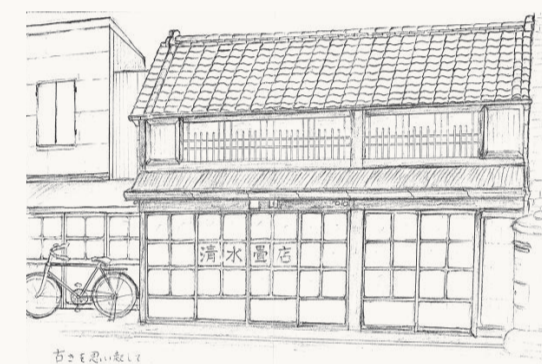
戦中・戦後の高輪

昭和20(1945)年の太平洋戦争により高輪地区も大空襲などにより大きな被害を受けました。このような戦争を二度と起こさぬよう、戦争を体験した方々の記憶からその悲惨さを後世に伝えるために、戦中、戦後の体験談をまとめました。

子ども時代の仕事場の想い出

実家は幸いに空襲にあわず戦前から残り、家と作業場に見習い職人3~4人が住み込みでいました。入り口はガラス戸で中に作業場があり、畳張りの作業を見ていた記憶があります。畳のイグサの香ばしい匂いが家中に満ちていました。

畳のへりを裁断した後のわらくずが庭にうず高く積まれ、たき火をして残り火にサツマイモを入れて焼くと、しっとりしたなんともいえないおいしい焼き芋を食べた記憶があります。



お父さんが記憶をたよりに描かれた当時の畳店の店構え

い人は角をつぶしてしまう。子どもの頃は飽きずにそれを見ていました。

父はとても器用で、「かましき」という畳表を四角く縫ってへりをつける敷物をよく作っていました。兄の長男も器用で、きれいに四角形や六角形にして商品として売っているようです。

畳屋さんとしてのエピソード

お寺やお屋敷では毎年畳替えをしましたから、年末は大忙しでした。赤穂浪士の討ち入り前に大広間の畳を一晩で畳替えをしたという有名な話があり、父から「江戸中の畳屋が大勢駆り出されご先祖様も参加していたかもしれない」と聞いた覚えがあります。

畳をリヤカーで運んでいた時代、大磯の吉田茂様のお屋敷まで仕事に向いたことがありました。朝まだ暗いうちに母たちが起きて、朝・昼2食分のおにぎりを職人さんたちに持たせる。いとこのお姉さんは、家中活気づいた様子がすごく楽しく、うれしくてよく見に来たそうです。

◇黒崎 敬夫さん(92歳)

戦争中の体験

父の代、大正時代から松坂町で青果商を営んでいました。兄は、一時軍隊に入っていました。が、体調不良のため除隊していました。兄は当時20歳で入隊し甲府の軍隊にあり、その後、インドネシアに行きましたが、無事復員しました。

私は、御田小学校に通っていましたが、1年間、栃木県の川治温泉に学童疎開してました。やはり食料は乏しく、さつまいもなどを食べていました。一人ひとり、食べ物が配られました。ある日、5人分足りないことがありました。調べたら、やはり、先にこっそり食べていた学童がいたことが分かりました。それほど、みんなおなかをすかせていたのですね。



松坂会館にて行われた取材でのお三方の様子。左から津久井喜美代さん、岡みちさん、黒崎敬夫さん

三田松坂町会の松田会長からご紹介いただき、90歳を超えてもお元氣な津久井さん、黒崎さん、岡さんから戦中・戦後の貴重なお話を伺いました。

◇津久井 喜美代さん(93歳)

満州での生活

和歌山県串本の出身で、昭和18(1943)年に家族とともに満州に渡りました。当時、東豊という所に住んでいました。満州人、朝鮮人、日本人は学校が分かれており、大学の図書館の一室を使い、日本人ばかり7~8人ほどで、ストーブを囲んで勉強したことを覚えています。父は従業員を雇い、中国人の協力も得て、日本人向けにお菓子や食料品などを調達・販売する事業をしていました。経済的には比較的裕福な方だったと思います。

内地への引き上げと戦後生活の始まり

昭和20(1945)年8月の敗戦の時に銀行が閉鎖になりましたが、父は直前にお金を引き出し事なきを得て、引き上げまでの1年間、従業員や親しい人たちにお金を配り生活の面倒をみていたようです。内地への引き上げの際、よく停まる列車の乗務員にお金を渡して発車を急がせたり、ノンストップで走らせたりしたようです。走る列車の窓から闇夜に弾丸の閃光を見たことを覚えています。

戦後の港区・高輪地区の都市形成について

松本泰生先生



都市形成史研究者で早稲田大学オープンカレッジ講師の松本泰生先生からお話を伺いました。

東京は、戦後、大規模な復興計画が構想されたようですが、GHQの消極姿勢や予算の制約により当初の計画は大幅に縮小されたそうです。港区の南部は戦災の影響が比較的少なかった地域といえます。これは高松宮邸など複数の宮邸や広大な寺社領が多く、延焼を免れたためと考えられます。港区では、麻布十番と東麻布や、現在のミッドタウンと六本木交差点間が戦後復興で区画整備されました。麻布十番の二つの道路に囲まれたエリアは駅前整備とは異なり、面として整備された、他には見られない珍しい場所で、パザーや市など地域のよりどころになる場所にと考えたのかもしれない。

高輪地区は、国道15号(第一京浜)、国道1号(桜田通り)などの幹線道路の整備が主でした。国道15号沿いは戦災で建物疎開された地域で、戦後の拡幅工事は容易だったものと思われます。国道1号は高輪、白金方面に向けて拡幅されました。

高輪地区は昔の面影が多く残る地域で、二本榎通りのように中世からの道も残っています。戦前の建物も多く残っており、複数の洋館、東芝高輪クラブの高輪館など米軍に接収された建物が多いことも高輪地区の特徴です。

高輪地区は、首都圏の中では例外的に機能観点だけの開発を免れ、江戸時代からの趣を色濃く残しつつ、一方で高輪ゲートウェイシティの開発に象徴される新しい都市機能が融和する地域といえるかもしれません。



みんなと結ぶ「へいわ」
~港区平和都市宣言40周年~

◇岡 みちさん(99歳)

今の東麻布商店街にあった実家

私の実家は、中の橋から北に延びる商店街(現東麻布商店街一すど通り)の中ほど、通りの西側の商店でした。父と母はそれぞれ、米屋、小間物屋を営んでいました。

8人きょうだいで私は3番目の次女ですが、幸い戦災で亡くなった家族はいません。

昭和19(1944)年頃、商店街の通りを挟んだ反対側が「建物疎開」により建物が取り払われ、延焼防止のための更地になりました。古川の両側もずっと更地にされました。

疎開と空襲

その頃私は、埼玉県の川越郊外の農家に疎開しました。農家なので、サツマイモ、人参、米など、食べるものに苦労した記憶はありません。

疎開している間、実家があった今の東麻布一帯は、昭和20(1945)年5月25日の空襲で完全に焼けてしまいました。実家に残っていた父母たちは、三田の丘を越えて焼けなかった三の橋近くの縁者の家に逃げました。

私は疎開先で終戦を迎えました。終戦直後、買出しにくる多くの人たちを目にしています。

戦後の生活と会社勤務

私は、昭和20(1945)年12月には、三の橋の方に避難していた父母のところに戻りました。父母の店は焼けてしまい家族の収入の道が断たれてしまったので、私も勤めに出ることにしました。

ちょうど第一生命の社員募集があり、採用されて本社の人事部門に配属になりました。皇居お堀端の本社ビルはGHQに接収されていましたが、会社は接収されなかった一部を使っていました。ただ、正面玄関はGHQ専用で、出入口は別でした。

28歳の時、ご縁があって近所の桜田通りに面した豆腐屋さんの息子さんと結婚しました。当時は、女性社員は結婚すれば退職という時代でしたが、研究の仕事を続けていた夫の収入が不安定でしたので、会社には結婚を伏せ勤務を続けました。昭和32(1957)年に長女を出産し、会社とはいろいろありましたが、産前産後の休暇をとり仕事に戻ることができました。出産を経て会社に残った女性社員は、第一生命では私が2人目でした。

夫は中学校の数学と理科の先生になって実家の豆腐屋は継ぎませんでしたが、義父母は今住んでいる三田五丁目の家を用意してくれました。

私は、第一生命で定年まで、38年間勤め上げました。



Nコン銅賞! 全国の舞台上響いた歌声

しょうえい 頌栄女子学院高等学校 聖歌隊を訪ねて



▲この日の練習は約40名。ピアノを囲み、一つのハーモニーを作り上げる

週5日の練習と学業の両立は大変ですが、合唱で培った集中力が勉強にも活かしているそうです。

「よい歌声を作るには人間関係が大切」と部長は語ります。音楽室のホワイトボードには、引退した先輩方からの応援メッセージが書かれていました。学年を超えた絆と、伝統の中で受け継がれてきた「合唱が好き」という想いが、美しいハーモニーを支えています。OGの合唱団もあり、想いは卒業後も続いています。

取材の最後、地域イベントでの演奏を期待する声に対し、「オファーがあればぜひ参加したい」と笑顔で応えてくれました。美しい歌声が、もっと多くの方々に届く日が楽しみです。

(担当/丹羽、村田、川野、堀井、阿部)

NHK全国学校音楽コンクール、通称「Nコン」。毎年全国2000校以上の中学・高校から約2万人が参加する大規模なコンクールです。令和7(2025)年度、頌栄女子学院高等学校が全国コンクールにて銅賞に輝きました。どんな活動をしているのか、練習風景を訪ねました。

正門から敷地の奥へ進むと、港区保護樹林に指定された豊かな自然が広がります。音楽室のある校舎に入ると、ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの美しい歌声が聞こえてきます。取材時の1月は、中3と高校生が混合で練習する引き継ぎの時期。高2が中心となっておりますが、高1も活発に意見を出しています。

入部時は、音楽経験者は多くないといいます。取材させていただいた信夫部長は「入学式での歌声に感動して」、戸田副部長は「歌が好きな人は誰でも! というチラシに惹かれて」入部を決めました。未経験だった生徒たちが、今では全国レベルの歌声を響かせています。

ここでは合唱部ではなく「聖歌隊」です。中高合わせて約70名が所属し、キリスト教主義に基づく教育を行う学院において重要な一翼を担っています。毎朝の礼拝で讃美歌を歌うほか、「春こん。」「Nコン」、文化祭でのミュージカル、クリスマス行事と年間を通じて活動し、年2回の合宿も行われます。年によっては老人ホーム訪問や外部イベントなども。



▲Nコンをはじめ、これまでに獲得した数々の賞状とトロフィー



▲練習で笑顔を見せる生徒たち。「合唱が好き」という想いが美しい歌声を支えている



▲今回インタビューを受けてくれた部長の信夫晴香さん(右)と副部長の戸田青芭さん(左)



「高輪消防少年団」をご存じですか?

団員募集中!

高輪消防署
ホームページ



「消防少年団」とは、主に小学生から高校生ままでが参加して、防火・防災の知識を身につけるために活動する団体です。知識だけでなく「七つのちかい」のもと、規律ある団体行動や奉仕活動などを通じて、社会の基本的なルールをきちんと守り、思いやりの心を持った責任感のある大人に育つことも目指しています。日々の活動は消火やAEDなどの知識・技術の習得だけでなく、舟艇乗船体験、みなと区民まつりパレード参加など行事も盛りだくさん。特に8月の野外でのキャンプは皆の楽しみです。

今回はクリスマス会準備中のところにお邪魔してきました。少年少女たちはみんな元気いっぱい!



▲クリスマス会の様子

指導員や父兄の方々と楽しそうに会場の飾りつけやお餅つきをしているのが印象的でした。お話を伺うと入団希望者も増えているそうです。また、高校卒業後、消防士を目指す子どもたちもいるようです。

想定外の災害が増えている近年ですが、首都直下地震の恐れが薄まったわけではありません。政府が令和7(2025)年12月に公表した被害想定では今後30年間での発生確率は70%です。そんな中、高輪という地域の中で防災意識と行動力を持った子どもたちがすすくと育っていると思うと、本当に頼もしい限りです。地区のイベントなどでBFC[Boys and girls Fire Club]のユニフォームを着たメンバーを見かけたら、暖かい目で見守り、応援しましょう。



▲消防舟艇の乗船体験



▲キャンプでの炊き出し訓練

高輪消防少年団ではただいま新入団員を募集しています。新学期から新しいことに挑戦してみませんか? 興味を持たれた方、どうかお気軽に高輪消防署にお問い合わせください。新しい仲間を待っています!



▲左から、副団長の金田美加穂さん、団長の宛木由美子さん、副団長の宮野佳恵さん

<高輪消防少年団の連絡先>

高輪消防署 警防課
地域防災担当
☎03-3446-0119
(内線 322)

(担当/堀井、佐々木、安藤、小坂、村田)

地域と歩んだ150年、そしてこの先へ ～港区立白金小学校～



▲高山直也校長

明治9(1876)年1月に設立された白金小学校。その資料室となる「ふるさと室」には、じつにたくさんの歴史が残されています。それらとともに、現在、そしてこの先への想いを、教員生活40年を過ごしてこられた、高山直也校長にお話を伺いました。

義務教育がなかった時代、当時の白金村・今里村の方々が有志と寄付を募り、後の学習院校長、清国大使を務めた大鳥圭介卿の三光坂上のお屋敷内の長屋に間借りする形で開校された白金小学校。その後、明治26(1893)年に日吉坂上へ、大正3(1914)年に現在の八芳

園の駐車場の場所へ移転、そして昭和2(1927)年に現在の場所に移転しました。当時の児童数は1420名(現在の児童数は約750名)。建築技術の粋を集めた鉄筋コンクリート地下1階、地上3階建ての大きな学校として、戦中、戦後の苦難を乗り越え、昭和55(1980)年に、今の姿に建て替えられました。

その過程では、明治34(1901)年に当時の生徒自身による「蛭雪の功」にならう校章の考案、明治44(1911)年に東京初の「保護者会」の設立、大正7(1918)年に校報『しろかね』の発刊など、今にも続く数えきれない歴史があります。

令和7(2025)年11月には150周年を記念した式典を開催。代表する6年生たちのこれま



▲校歌が刻まれた石碑

での感謝と輝きに満ちた発表や、全国レベルでその名を轟かす同校合唱団の歌声に、校長も思わず涙がこぼれたとのことでした。

学びとともに地域の町会と共に行う「ふれあい運動会」や「防災教室」など、地元と共生を続けている白金小学校。この先も続いてほしい大切な価値は?と高山校長にお聞きしたところ、「それは大正5(1916)年に作られた校歌に凝縮されています」とのお話をいただきました。

こがね しろかね 黄金 白金 それよりも まさ 優る心の真白玉
たゆまず うまらず 朝夕に みが みが 磨き磨きて
ももちち 人の中たる人たらん (校歌より)

物質的な富よりも清らかで曇りない心を。常に自己を磨いて真に優れた人に!

(担当/清水、村田、阿部、堀井、丹羽)



▲第1次校舎(明治9年1月竣工)



▲第2次校舎(明治26年1月竣工)



▲第6次校舎(昭和2年5月竣工)

ほぼ20年に一度だけ、池の水を抜く「かいぼり」って?

白金台に里山の面影を守る国立科学博物館附属自然教育園の水生植物園の池において、令和7(2025)年12月14日(日)、堆積した泥の除去、微生物の過剰な繁殖や外来種の被害の防止などを目的に、池の水を抜いて作業する「かいぼり」(掻い掘り)が行われました。約20年ぶりのことです。今回は公募した一般の方約50名も参加しました。

稲作の終わった時期に、農業用のため池を大掃除して来期に備えることから始まったという「かいぼり」ですが、自然保護にも有効ということで、各地で行われるようになり、約20年がひとつの周期になっているようです。参加した皆さんは、ウェーダー(胸元まである防水ズボ

ン)、ゴム手袋、長靴を着用し、タモ網やタライを手に沼地と化した水の抜かれた池に進み入っていきます(開会時点で、水は抜かれていました)。

底にたまった泥の中を進むのは大変なようで、思うようには歩けません。「足を上げるときは、かかとから」と、指導されている人から声がかかります。そうして頑張って泥や生物をすくい上げ、池を掃除しました。参加していた40代の男性は「生物が好きで、少しでも自然を守りたい」と、話してくれました。

約3時間かけて大掃除が終わり、最後に、この日採れたのが、モツゴ(コイ科)95匹、スジエ



▲“かいぼり”奮闘中

ビ45匹、クサガメ13匹などだったと発表されました。今後3カ月ほど、池の天日干し期間中は、仮の住まいで過ごすとのこと。「ブラックバスなど外来種がいなかったのは、先人のかいぼりのおかげでは?」の声も。

自然教育園の下田彰子さんは「都会に残された貴重な自然を持続的に残すために、企業や住民の皆さんとも一緒に取り組んでいきたいと思っています。」と、話してくれました。自然あつての人間です。

▲思いを語る下田彰子さん

「自然から遠ざかると、病に近くなる」
(ヒポクラテス・古代ギリシャの医師)

(担当/三富、平尾)



▲開会式



▲池にお住まいのクサガメさん

画像提供: 国立科学博物館附属自然教育園

区からのお知らせ



区公式X(東京都港区【地域情報】)では、地域のできごとをはじめとしたさまざまな情報を発信中。ぜひフォローをよろしくお願いします! @minato_chiiki



「町会・自治会・マンション交流活性化プロジェクト」地域の「潤滑油」となる講座

●講座内容…この講座は、お住まいの町会・自治会で活動する担い手の育成を目的としています。講座では、お住まいの町会・自治会との個別のマッチングを行うほか、町会・自治会のイベントなどを体験しながら、地域の歴史や町会・自治会の課題などを学び合います。

- 対象…高輪地区総合支所管内在住者
- 定員…20人程度(申込順)
- 費用…無料

●講座概要…5月から1月までの6回程度(予定) 詳細は、港区ホームページ(4月1日更新予定)をご覧ください。



問 高輪地区総合支所 協働推進課 協働推進係 ☎03-5421-7621

桜響(さくらびびく)コンサート



グランドプリンスホテル高輪にて開催中の「高輪 桜まつり2026」にて、4月4日(土)に東海大学付属高輪台高等学校吹奏楽部による「桜響(さくらびびく)コンサート」を初開催。17種類約210本の桜が咲く日本庭園にて、迫力のある生演奏を披露します。

また、コンサート当日は、日本庭園にある茶室「竹心庵」にて、春の花々が彩る「茶室×いけばなギャラリー」を開催。地域に根ざした活動と豊かな表現力で多くの人を魅了してきた同部の音色が、伝統を受け継ぐ高輪の春をより鮮やかに彩ります。 ※なお雨天時は、国際館パミール1Fロビーにて実施。

令和8年度 港区民交通傷害保険に加入しましょう

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でけがをした場合、入院・通院の治療日数と治療期間に応じた保険金をお支払いする制度です。

- 対象…保険開始時点で区内在住・在勤・在学者
- 保険期間…令和8年4月1日午前0時～令和9年3月31日午後12時 ※中途加入の場合は、申込日の翌月1日午前0時～令和9年3月31日午後12時
- コースと保険料…補償内容に応じて1,200円～4,300円の保険料の7つのコースがあります。

詳しくは、各総合支所協働推進課で配布するリーフレットまたは港区ホームページをご覧ください。

- 申込期間…令和8年2月2日(月)～令和8年3月31日(火) ※WEBは令和8年2月1日(日)～令和9年1月31日(日)

●申込方法
 <窓口> 区内金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局)で配布する加入申込書に必要事項を明記し、保険料を添えてお申し込みください。町会・自治会等10人以上の団体加入は、最寄りの総合支所協働推進課へ。
 <ホームページ> 右の二次元コードからお申し込みください。インターネットでは、4月1日以降も中途加入の申し込みを受け付けます。



区民交通傷害保険 ホームページ

[引受保険会社] 保険内容について詳しくは、損害保険ジャパン株式会社公務文教営業部東京公務課(受付時間: 祝日を除く月～金曜 午前9時～午後5時)へ。 ☎03-3349-9666 ※承認番号: SJ25-12822 承認日: 2026/01/14

問 高輪地区総合支所 協働推進課 協働推進係 ☎03-5421-7621

令和9年3月までオンデマンドモビリティ「みなりの」の実証運行を延長します!



緑色の「みなりの」マークの車が目印です

高輪地区において運行しているオンデマンドモビリティ「みなりの」について、実証運行期間を令和9年3月31日まで再延長します。

そのほか、詳しくは「みなりの」ホームページでご確認ください。



みなりの ホームページ

問 「みなりの」カスタマーサポート ☎050-2018-0107(9:00～19:00)

コミュニティ・カフェ高輪



HUG高輪2階区民協働スペース ミニ講演会 令和7(2025)年11月

高輪地区CCクラブ、高輪地区総合支所協働推進課、高輪区民センターそして地域の方が協働で運営し、誰でも自由に参加できるカフェです。高輪区民センター2階展示ギャラリー前では毎月第2・4金曜日(13:30～15:30)で、ゆかしの杜の6階区民協働スペースでは毎月第3金曜日(8月は休み)(13:30～15:30)で、HUG高輪では毎月第3火曜日(8月は休み)にミニ講演会(14:00から)かカフェ(13:30～15:30)を開催しています。高輪区民センターカフェではボッチャやスマホ相談室も行っています。詳細は港区掲示板、高輪地区デジタルサイネージ、いきいきプラザなどのチラシでご案内します。

問 高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 ☎03-5421-7123

区民編集メンバー考案!

クロスワードパズル

高輪縦横無尽

(担当/飯島)

□の文字を並べ替えると、一つの言葉が出てきます

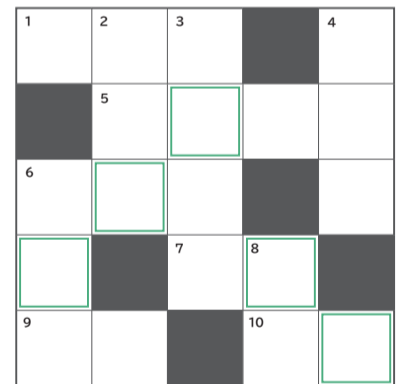
答えはこのページの一番下

タテのカギ

- 2 国や社会の秩序が保たれ、人々が安心して暮らせる平和で安全な状態のこと。
- 3 ため池の水を抜き、底にたまった泥を取り除き、池底を天日干しする作業。
- 4 女性の声種の一つで、ソプラノ、メゾソプラノに次ぐ低い音域。
- 6 猪はボタン。鹿はモミジ。馬は〇〇〇。
- 8 頭髪が白髪になること。白髪が目立つこと。頭に〇〇をいただく。

ヨコのカギ

- 1 17世紀オランダの哲学者スピノザの著書。
- 5 仕事が落ち着いている時間。〇〇〇〇タイム。
- 6 ソビエト連邦で開発された自己防衛のための特別な格闘技。
- 7 貸借した金銭に対して一定利率で支払われる対価。
- 9 物事が進展しない、解決しない、決着がつかない状態。〇〇が明かない。
- 10 新たな日本文化を創造・発信するミュージアム。〇〇タカナワ。



各支所で、地域情報紙(情報誌)を定期的に発行しています

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」

- 高輪地区総合支所「みなとつぷ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあつぷ」

支所内各戸配布のほか、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)・各いきいきプラザで閲覧することができます

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとつぷ バックナンバー

編集だより

57号

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

区民編集メンバー

※50音順

- | | |
|---------------|--------|
| 安藤 洋一(チーフ) | 清水 徹夫 |
| 阿部 泰 | 田中 康造 |
| 大友 登喜雄(サブチーフ) | 丹羽 彩子 |
| 飯島 真弓 | 平尾 恭一 |
| 川野 まりえ | 堀井 由里子 |
| 小坂 靖浩 | 三富 和則 |
| 佐々木 智秋 | 村田 志織里 |
| 真田 晃 | 森 佳夫 |

- ▶「みなとつぷ」の記事から高輪地区の過去、現在、未来にぐるぐるつながる「物語」を読んでいたただけなら幸いです。(安藤)
- ▶高層ビル建設の勢いが止まりません。自然観察に関心のある知人によると、ここ数年、高輪上空を通過する渡り鳥のコースが変わったそうです。気流の変化かも。(阿部)
- ▶量職人の伝統技術の奥深さに感銘するとともに、柏原さんの父や兄に対する深い尊敬の念も感じることができ、意義深い取材となりました。(大友)
- ▶今回もクロスワード作りを担当しました。ちょっとした頭の体操として、お役に立てていたら幸いです。(飯島)
- ▶三田地域の町会に長く住まれている方々から、戦前・戦後の暮らしの様子をお聞きして、大変だった時代に思いをはせ、また暮らしの知恵をお聞きし、感動しました。(川野)
- ▶高輪消防少年団の取材に高輪消防署に伺いました。取材時はクリスマス会でしたが、港区みんなのひろばの人も見かけ、みんな仲良く、クリスマス会はとても楽しそうでした。(小坂)
- ▶高輪消防少年団の取材に参加。1年を通してさまざまな活動が経験ができます!少しでも興味のある方はお気軽にお問い合わせください!(佐々木)
- ▶戦中・戦後をご経験された方々からお話を伺っていますが、皆さまの迫真のお話について圧倒されています。(真田)

- ▶白金小を訪ね地域の歴史の深さの一端に触れました。ローマも1日にしてならず。将来に向けて住民としての責務を感じるひとときになりました(清水)
- ▶戦中・戦後の体験談に触れ、戦後のまちの成り立ちを知ることで、港区高輪のいつとは違う側面を見た気がしました。(田中)
- ▶編集委員になって1年。今回はMoN Takanawaと頌栄女子聖歌隊を取材し、文化が人と人をつなぎ、未来へと循環していく力を改めて感じました。(丹羽)
- ▶地域に根差した白金小学校150年の歩みと産声を上げたばかりの高輪ゲートウェイ。今回は住んでいる地域のいろいろな面を取材できて楽しかったです。(堀井)
- ▶編集委員に加えていただき3年目。これからももっとすてきな情報をお届けすべく頑張ります。(三富)
- ▶頌栄女子学院の聖歌隊の方々の若さと力強さが詰まったハーモニーに涙が出そうになりました。彼女たちが紡ぎ続けている音楽がたくさんの方々の耳に心に届きますように。(村田)
- ▶街びらきから1年。待ちに待った高輪ゲートウェイシティのグランドオープンです。たくさんのイベントを楽しみにしています。(森)



買い物するなら地元の商店街で

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係

☎5421-7612

保健福祉係

☎5421-7085